

半側空間無視：空間性注意の偏向にアプローチする

Unilateral spatial neglect: approaches to biased spatial attention

- ・ 講師：石合 純夫 教授（札幌医科大学医学部リハビリテーション医学講座）

Prof. Sumio Ishiai

(Department of Rehabilitation Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine)

- ・ 日時：平成 26 年 7 月 24 日（木） 18：00 July 24th (THU) from 18:00.

** 通常とは曜日・時間が異なります。ご注意ください。 **

- ・ 場所：医学教育図書棟 3 階 第 2 講義室

Lecture Room 2, Medical Education & Library Building 3F.

半側空間無視は、大脳半球病巣と対側の空間とうまく付き合えなくなる症状であり、主に右半球の脳卒中後に左無視として起こる。同名半盲と異なり、視線や頭部を動かしてもよい状況で起こり、食事や移動をはじめとする幅広い生活場面において困難が生じる。我々が見渡せる周囲の空間と付き合うには、重要度の高い対象に意識を集中して反応したり処理したりし、また、必要に応じて柔軟に別の対象に意識の中心を移していく必要がある。典型的な例は、道路を横断する時で、視野として左右 180 度程度見えていても、「右を見て、左を見て注意」する必要がある。このような過程の総体を「空間性注意」という。半側空間無視では、この空間性注意に右方へのバイアスが生じてしまっている。注意が向かない対象や部分は意識に上る処理が行われない。そのために、見落としているという意識、すなわち「病識」が生じない。一方で、脳は、注意が向き意識された右側の空間や部分に依存して、全体を短絡的に判断してしまう。空間性注意のバイアスの特徴を臨床症状から掘り下げ、その改善に多角的にアプローチする取り組みについて解説したい。

世話分野：池田 学 教授（神経精神医学分野）

Inviter：Prof. Manabu Ikeda (Department of Neuropsychiatry)

レポート提出先/Essay（池田教授宛/Prof. Ikeda）：mikeda@kumamoto-u.ac.jp

レポート提出先/Essay（CC:医学教務/Student Affairs Sec.）：iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp

